

# 公共工事における総合評価落札方式の実施状況について



社会資本マネジメント研究センター

社会資本マネジメント研究室 主任研究官 富澤 成実 室長 中尾 吉宏 研究官 島田 浩樹

(キーワード) 公共工事、入札・契約、総合評価落札方式、評価項目、工事成績

## 1. はじめに

国土交通省における直轄工事の総合評価落札方式では、契約タイプを技術提案評価型(S型、A型)と施工能力評価型(I型、II型)に区分した二極化を2013年度から運用している。本稿では、発注件数の約9割を占める施工能力評価型において、より工事条件等に合った適切な技術力の評価項目を検討するため、評価項目(企業の能力等、技術者の能力等)の配点(割合)や評価結果等に着目し分析を行った。

## 2. 対象データ

分析対象データは、地方整備局等(各地方整備局、北海道開発局、内閣府沖縄総合事務局)の2014年度～2016年度契約工事(施工能力評価型)の主要4工事種別(一般土木、アスファルト舗装、鋼橋上部、プレストレスト・コンクリート)の中から、採用率(設定件数/工事件数)90%以上の評価項目(「企業・技術者の実績」「企業・技術者の成績」「企業・技術者の表彰」「CPDの取得状況」「災害協定等」)が全て設定されている工事(現時点で収集済みデータ)を対象とした。

## 3. 落札者の決定要因として影響のある評価項目

評価項目の配点(割合)内訳を図1、競争参加者の各評価項目の得点率内訳を図2、落札者と非落札者の平均得点差を図3に示す。「企業の実績」の配点割合は、全体の9%(3.7点)でそれほど高くない。ただし、平均

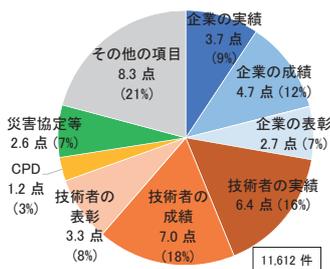


図1 評価項目の配点(割合)内訳

得点率(79.4%)は最も高く、競争参加者の7割以上が満点(100%)を取得しているが、落札者の平均得点率は特に高く(90.2%)、非落札者(76.9%)との差が大きいことから平均得点差も0.49

点と企業の評価項目の中では差が付きやすい項目となっている。一方、「技術者の成績」の配点割合は、全体の18%(7.0点)と最も高い。得点率は、得点なし(0%)・中間点(0%超100%未満)・満点の割合に大きな偏りはなく、平均得点率(57.0%)もそれほど高くない。なお、落札者と非落札者の平均得点差は1.24点と評価項目の中で最も差が付き易い事から、落札者の決定要因として影響が大きい項目と考えられる。

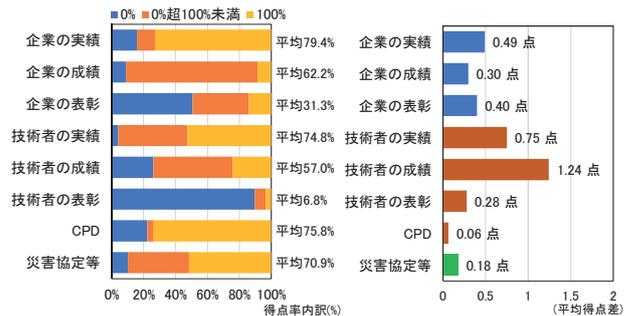


図2 競争参加者の得点率内訳 図3 落札者-非落札者の平均得点差

## 4. 評価項目の得点率と完成時の工事成績の関係

落札者の入札時の評価と完成時の工事成績の関係を「技術者の成績」の評価項目で見ると、得点率が高いほど完成時の工事成績が高まる傾向にある。(図4)

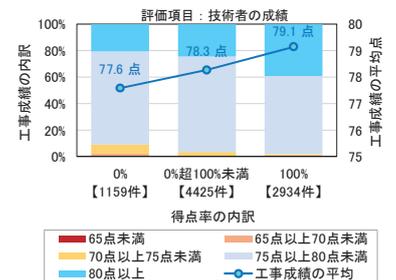


図4 入札時評価と完成時の工事成績の関係

## 5. 今後の予定

評価項目の配点(割合)、得点(率)、得点差、入札時の評価と完成時の工事成績との関係等の分析を更に進め、適切な技術力の評価項目の検証を行い総合評価ガイドラインの改定等に繋げていく予定である。

【参考：関連するWEBサイトのURL】

社会資本マネジメント研究室のHPを参照

<http://www.nilim.go.jp/lab/peg/index.htm>

(76.9%)との差が大きいことから平均得点差も0.49